

I. 法人の概要	1
(1)基本情報.....	1
(2)創学の精神	1
(3)大学の理念.....	1
(4)学校法人の沿革.....	1
(5)学校・学部・学科等	2
(6)学校・学部・学科等の学生数.....	2
(7)収容定員充足率.....	3
(8)役員の概要.....	3
(9)評議員の概要	4
(10)教職員の概要.....	4
II. 事業の概要等.....	5
(1)教育に関する計画	10
(2)研究に関する計画	12
(3)学生支援に関する計画.....	13
(4)学生募集に関する計画.....	17
(5)キャンパス整備及び施設・設備に関する計画	18
(6)社会連携事業に関する計画	19
(7)広報活動に関する計画.....	20
(8)自己点検・評価に関する計画.....	20
(9)管理・運営・財政基盤強化に関する計画.....	21
III. 財務の概要	23
(1)事業の予算執行.....	23
(2)法人会計決算	23
(3)財務運営の状況.....	31
(4)経営上の成果と課題、今後の対応方策	39

I 法人の概要

1. 基本情報

- 法人名称 : 学校法人神戸薬科大学
主たる事務所の住所 : 兵庫県神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号
電話番号 : 078-453-0031
FAX番号 : 078-441-7506
ホームページアドレス : <https://www.kobepharma-u.ac.jp/>

2. 創学の精神

科学的素養を身につけ、社会に貢献できる女子を育成し、
薬剤師資格を得て社会で女子が自立できることを目的とする。

3. 大学の理念

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、
創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、
医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、
高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、
並びに教育・研究者を養成すること、
さらに地域の医療と環境問題に目を向けて
健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること

4. 学校法人の沿革

- 1930 (昭和5)年 4月 5日 武庫郡魚崎町に「神戸女子薬学校」として開校
1932 (昭和7)年 4月 1日 専門学校令による「神戸女子薬学専門学校」設立
(認可S7年3月29日)(財団法人認可S7年3月29日)
1932 (昭和7)年 4月27日 神戸市灘区原田に開校(4月27日創立記念日)
1935 (昭和10)年 4月 1日 現在地に移転(本館・実験室1棟・寄宿舍北寮竣工)
1949 (昭和24)年 4月 1日 学制改革により「神戸女子薬科大学」設置
(認可S24年2月21日)
1951 (昭和26)年 3月 5日 財団法人神戸薬科大学の組織変更
学校法人神戸薬科大学設立認可
1965 (昭和40)年 4月 1日 薬学科(既設)に併せて衛生薬学科を増設
(認可S40年1月19日)
1967 (昭和42)年 4月 1日 大学院博士前期(修士)課程開設(認可S42年3月29日)
1979 (昭和54)年 4月 1日 大学院博士後期課程増設(認可S54年3月30日)
1994 (平成6)年 4月 1日 大学名称変更「神戸薬科大学」・男女共学となる
(認可H5年8月24日)
1996 (平成8)年 6月 1日 医療薬学総合研修センター開設
1998 (平成10)年11月30日 西宮グラウンド開設
2000 (平成12)年 8月31日 10号館(神戸薬科大学ライフサイエンスセンター)竣工

- 2002（平成14）年 4月 1日 大学院医療薬科学専攻修士課程開設
（認可H13年12月20日）
- 2005（平成17）年 4月 1日 収容定員増学則変更（認可H16年9月30日）
- 2006（平成18）年 4月 1日 学部6年制教育開始・収容定員増学則変更
（認可H17年9月30日）
- 2006（平成18）年10月 1日 薬学基礎教育センター開設
- 2007（平成19）年 6月20日 薬剤師認定制度認証機構から「生涯研修プロバイダー」
として認証 エクステンションセンター開設
- 2008（平成20）年 2月29日 11号館開設（薬学臨床教育センター）竣工
- 2008（平成20）年11月25日 学生支援センター設置（3号館改修）
- 2009（平成21）年 4月 1日 （財）大学基準協会の大学基準による大学評価
（機関別認証評価）認定
（認定期間は、H21年4月1日～H28年3月31日の7年間）
- 2010（平成22）年 4月 1日 大学院薬科学専攻修士課程開設（認可H22年9月30日）
- 2010（平成22）年10月28日 六甲キャンパス校地校舎取得
- 2012（平成24）年 4月 1日 大学院薬学専攻博士課程開設（認可H23年9月26日）
- 2013（平成25）年 3月 1日 80周年記念館（6号館）竣工
- 2016（平成28）年 4月 1日 （公財）大学基準協会による大学評価（機関別認証評価）
認定（認定期間は、H28年4月1日～H35年3月31日の7年間）
- 2017（平成29）年 2月 1日 8号館（研究棟）竣工
- 2017（平成29）年 3月31日 （一般）薬学教育評価機構による薬学教育評価
（専門分野別評価）認定
- 2017（平成29）年 9月 1日 地域連携サテライトセンター竣工
- 2017（平成29）年12月15日 薬剤師認定制度認証機構から
「健康食品領域研修認定薬剤師制度」の実施機関として
認証
- 2021（令和 3）年 4月 1日 総合教育研究センター開設

5. 学校・学部・学科等

設置する学校	学部・学科等
神戸薬科大学	薬学部（薬学科）
神戸薬科大学大学院	薬学研究科（薬学専攻、薬科学専攻）

6. 学校・学部・学科等の学生数【2021年5月1日現在】

(学部)

区分	年次	定員	現員	男(比率)	女(比率)
薬学部 薬学科	1年次生	270	297	99(33.3%)	198(66.7%)
	2年次生	270	287	96(33.4%)	191(66.6%)
	3年次生	270	301	75(24.9%)	226(75.1%)
	4年次生	270	240	66(27.5%)	174(72.5%)
	5年次生	270	292	89(30.5%)	203(69.5%)
	6年次生	270	284	82(28.9%)	202(71.1%)
	計		1,620	1,701	507(29.8%)

(大学院)

区分		年次	定員	現員	男 (比率)	女 (比率)
薬学 研究科	修士課程	1年次生	5	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)
		2年次生	5	0	0 (0%)	0 (0%)
	博士課程	1年次生	3	3	3 (100%)	0 (0%)
		2年次生	3	6	3 (50.0%)	3 (50.0%)
		3年次生	3	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)
		4年次生	3	3	3 (100%)	0 (0%)
計			22	20	14 (70.0%)	6 (30.0%)

7. 収容定員充足率

学校名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
神戸薬科大学	108.5%	105.9%	105.8%	103.4%	105.0%

8. 役員の概要【2021年6月1日現在】

理事定数 8~12名 <実数 11名>、監事 2名

役職	氏名	就任年月日	常勤・ 非常勤の別	業務執行・ 非業務執行の別
理事長	宮武 健次郎	2014年6月1日	非常勤	業務執行
理事 (学長)	宮田 興子	2016年4月1日	常勤	職員
理事	金子 正	2016年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	五代 友和	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	中山 尋量	2009年4月1日	常勤	職員
理事	岡田 功	2020年4月1日	常勤	職員
理事	北川 裕之	2014年4月1日	常勤	職員
理事	向 高弘	2018年4月1日	常勤	職員
理事	植野 光信	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	赤松 路子	2018年6月1日	非常勤	非業務執行
理事	韓 秀妃	2019年4月1日	非常勤	非業務執行
監事	栗原 信邦	2016年6月1日	非常勤	非業務執行
監事	古谷 泰治	2018年6月1日	非常勤	非業務執行

役員賠償責任保険契約の状況

加入責任期間 2021年4月1日~2022年4月1日
 被保険者 理事・監事、評議員、退任役員
 支払限度額 300,000千円

9. 評議員の概要【2021年6月1日現在】

定数 18～32名 <実数 25名>

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
中山 尋量	2010年 4月 1日	金子 正	2006年 6月 1日
江本 憲昭	2016年 5月27日	五代 友和	2016年 6月 1日
岡田 功	2018年 4月 1日	土屋 裕弘	2018年 6月 1日
中山 隆博	2016年 5月27日	橋田 充	2018年 6月 1日
加島 進	2018年 4月 1日	津田 奈津子	2018年 9月 19日
上田 昌史	2018年 4月 1日	野町 佳弘	2019年 5月 28日
柳川 貴志	2018年 4月 1日	松川 美佐子	2020年 5月 28日
田中 良子	2006年 6月 1日	前田 美希	2021年 5月 27日
竹内 敦子	2018年 6月 1日	家次 恒	2002年 6月 1日
山野 由美子	2018年 6月 1日	小野 昭夫	2002年 6月 1日
杉田 みどり	2018年 6月 1日	西田 英之	2010年 6月 1日
宮崎 智子	2018年 6月 1日	藤本 孝明	2016年 10月 28日
辻井 理津子	2019年 5月28日		

10. 教職員の概要【2021年5月1日現在】

教育職員 88名 (平均年齢：49.5歳)				
教授 32名	准教授 17名	講師 22名	助教 15名	助手 2名

※学長・副学長は教授に含む

※特任助教は助教に含む

事務職員等 45名 (平均年齢：47.68歳)					
所属部署		事務系	技術系	兼任	計
事務局	総務課	7			7
	施設課	5	1		6
	経理課	4			4
	企画・広報課	6			6
学生支援センター	教務課	6			6
	学生課	4			4
	キャリア支援課	3			3
入試部	入試課	4			4
図書館	図書館課	1			1
薬用植物園	薬用植物園課		1		1
情報支援室		2			2
内部監査室		1		(2)	1(2)
計		43	2	(2)	45(2)

※事務局長は総務課に含む

※企画・広報課（事務系）のうち、1名は非常勤職員

※内部監査室（兼任）のうち、1名は教員

II 事業の概要等

第2期中期計画初年度の2019年度は「質の高い教育を保証する教学マネジメントの構築」に注力しました。具体的には、拡大教学マネジメント会議を毎月開催し、教育支援体制の強化（総合教育研究センターの創設）及び改正カリキュラムの検討を行うとともに、教育職員評価制度を導入し2020年度からトライアル運用を開始しました。施設・設備においては、1号館の残存アスベスト対策、女子学生寮のカビ対策を行いました。さらに私立学校法の対応で寄附行為を改正し、2020年4月1日に施行しました。

第2期中期計画2年目にあたる2020年度、さらに3年目の2021年度は、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応に全力をあげる時期となりました。2020年度は本格的な授業のオンライン提供にむけて全力で取り組みました。感染対策と教育の提供の両方を図るため、ハイブリッド型の授業提供、そのための学内LANや機器の整備、PCの貸し出し、Wi-Fiルーターの貸し出し、さらに大学奨学金の拡充、学生支援緊急給付金、緊急特別無利子貸与型奨学金、授業料納付期限の延長等、いくつもの学生支援策を打ち出しました。

2021年度もたいへんな混乱の中ではありましたが、新しいLMS（Learning Management System）の導入、ネットワーク環境の高速化、web会議システムによる授業の同時配信、動画配信サービスによるオンデマンド授業の提供等、様々な対策によって学生の教育機会を担保することができ、一方でコロナワクチンの職域接種にも取り組み、パンデミックの中での教育体制が強化されてきました。また、長年の懸案事項であった、耐震化100%に向けたキャンパス整備計画を再開しました。2020年12月には基本方針を決議し、2021年3月に実施業者を選定し、2021年度には2,3,9号館と守衛室の解体工事、地盤調査を開始しました。その計画は2022年度に引き継がれています。跡地に建築される新棟及び防災管理センターの整備に向けて、大きく歩み始めた2021年度でした。

次に、教育・研究の概要として、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の内容をあらためて記載します。

[3つのポリシー]

(薬学部)

(1) ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、薬剤師に必要な以下に掲げる知識、技能、態度を備えた学生の卒業を認め、「学士（薬学）」の学位を授与する。

- ① 医療を担う薬の専門家として相応しい薬学に関する十分な知識、技能を有すること。
- ② 薬学・医療の進歩と改善に貢献できる科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力を有すること。

- ③ 医療人として相応しい倫理観と使命感を有し、患者や生活者の立場に立って行動できること。
- ④ 医療人に必要なコミュニケーション力を有すること。
- ⑤ 医療人としての活動に必要な英語力を有し、グローバル化に対応した国際感覚を有すること。
- ⑥ 地域の医療、環境衛生に貢献できる幅広い知識と見識を有すること。
- ⑦ 生涯にわたって自己研鑽をし続ける能力と意欲を有すること。

(2) カリキュラム・ポリシー

本学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

本学の教育課程では、その授業科目を基礎教育科目、教養教育科目及び専門教育科目に分ける。各授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。全ての授業科目に GIO（一般目標）と複数の SBOs（到達目標）を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を実現する。

- ・幅広い視野を身につけるための教養教育科目、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した薬学基礎系科目及び医療系科目を系統的に編成し、実施する。
- ・医療人としての倫理観と使命感を育成し、患者・生活者本位の視点を身につけるための科目を編成し、実施する。
- ・国際化に対応できる人材の養成を図るため、6年間を通じて英語を学べる環境を構築するとともに、医療、薬学に係る英語科目を編成し、実施する。
- ・地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力を養成し、近隣大学や地域の医療機関との連携に基づくチーム医療教育を充実し、実施する。
- ・研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲と態度を有する人材の養成を図るため、薬学臨床科目、薬学研究科目を編成し、実施する。
- ・生涯学習に対する意欲を醸成するために、薬剤師生涯研修事業を取り入れるなど、特色ある薬学教育アドバンスト科目を編成し、実施する。
- ・本学独自科目をシラバスに明記し、履修モデルをもとに目指すキャリアを明確にする。
- ・高等学校から大学への円滑な接続ができるよう、初年次教育を充実させ、習熟度に配慮したクラス編成を取り入れた科目を編成し、実施する。
- ・科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成を図るため、PBL や SGD などのアクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育科目や統合教育科目を編成し、実施する。
- ・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる薬剤師に必要な知識、技能、態度を評価する。

① 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目の評価

② 実務実習の評価

③ 卒業研究の評価

(3) アドミッション・ポリシー

本学では、その理念、教育目標、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）のもと、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、社会に貢献する為に高度な薬学の知識と技能を修得できる資質と協働性をもった、次のような人を求めています。

求める人物像

- ① 自然科学を深く学ぶ意欲と能力を有している人物
- ② 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得している人物
- ③ 本学での学習を通してこれからの社会で通用する実力及び医療人に必要なコミュニケーション力を身につけ、将来、薬学、医療、及び関連する分野で活躍したいという強い意志と意欲を持つ人物

求める人物像における具体的な項目について記載し、このような入学者を適正に選抜するため多様な選抜方法を実施します。

関心・意欲・態度・探究心

自然科学（特に薬学及び関連分野）に強い関心と学ぶ意欲を持ち、生命・健康・医療に関する諸問題に対して探究心を身に付け、活躍、貢献したいという意志を持つ人物

知識・教養

薬学の専門分野を学ぶために、入学後の学修に必要な理科、数学に加え、英語等の基礎学力を有している人物

思考力・判断力

これまでの知識をもとに、思考を深めながら適切に判断できる人物

表現力・コミュニケーション力

自分が伝えたいことを相手に表現できるだけでなく、相手の表現を正しく理解し、コミュニケーションできる人物

協働性

問題解決のために、いろいろな分野の人と協力して活動できる人物

*高等学校で学ぶべき具体的な内容

（試験科目より）

理科「化学基礎・化学」「生物」「物理」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢

数学「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」の基礎的な知識と論理的思考力

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力

（試験科目以外）

国語 様々な文章の読解力と自分の伝えたいことを表現できる基礎的な文章力

公民 倫理における基礎的な内容の理解

特別活動及び課外活動等を通じた自主性、協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(大学院・博士課程(4年制)薬学研究科薬学専攻)

(1) ディプロマ・ポリシー

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究等を通じて以下に掲げる高度な専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に博士(薬学)の学位を授与する。また、博士(薬学)の学位は、本学に学位申請論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも授与する。

- ① 薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得し、先端的な研究を実践できる能力を身につけて、薬学研究を行うことができること。
- ② 国際的視点から薬学専門領域の研究動向を把握した論文作成能力及びコミュニケーション能力を身につけていること。
- ③ 高い倫理観と生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解して、医療に関する課題を発見し、解決にむけて対応する能力が培われていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

講義、演習、課題研究等を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目にGIO(一般目標)と複数のSBOs(到達目標)を定める。これらのSBOsを達成することによりGIOに到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・薬学研究を遂行するための基盤として、英語論文の作成能力や研究者としての倫理観を育成するための必修講義科目を設置し、実施する。
- ・薬学専門領域の研究動向や薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・論理的思考力、課題発見能力、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。
- ・薬学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また総説講演にて、最新の研究動向及び研究成果を発表することにより、プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況やコミュニケーション能力を確認し、指導する。
- ・臨床薬学コースを選択した学生に対しては、医療現場等で課題を発見し、解決する能力を培うため、臨床研修科目を設置し、実施する。
- ・薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

(3) アドミッション・ポリシー

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬学専攻博士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 医療人としての倫理性を備え、臨床薬学業務を担う熱意を持つとともに、確かで高度な専門知識に裏づけられた技能を持つことに意欲の高い人物
- ② チーム医療の現場において薬剤師として活躍できる人物

- ③ 創薬・育薬を担う熱意を持つとともに、人間性豊かで医薬品開発などの国際的舞台上で活躍を目指す意欲の高い人物

(大学院・修士課程 (2年制) 薬学研究科薬学専攻)

(1) ディプロマ・ポリシー

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究を通じて以下に掲げる専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に修士(薬科学)の学位を授与する。

- ① 最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識の修得により、薬科学研究を遂行できる基盤的能力を身につけていること。
- ② 生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解し、幅広い視野に立って薬科学領域の課題を発見する能力及びその課題解決のための基盤的能力が培われていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

講義、演習、課題研究を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目に GIO (一般目標) と複数の SBOs (到達目標) を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・薬科学研究を遂行するための基盤を育成する講義科目を設置し、実施する。
- ・最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・科学的思考力、課題発見能力、コミュニケーションスキルの育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。
- ・薬科学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また研究成果発表会にて研究の進捗を報告することにより、プレゼンテーション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況を確認し、指導する。
- ・薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

(3) アドミッション・ポリシー

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬科学専攻修士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 4年制の薬学部を卒業し、より高度な創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門的知識や研究能力を持つ薬科学研究者を目指す人物
- ② 薬学部以外の出身者で、それぞれの専門的知識に本学が有する創薬科学研究の知識・技術を融合させた薬科学研究者を目指す人物

事業計画の各項目について、実施状況を次のとおり報告します。

1. 教育に関する計画

(学部)

(1) 3つのポリシーに基づく教育改革の継続的展開

大学の理念、教育目標、3つのポリシー（①アドミッション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③ディプロマ・ポリシー）を基本に据えて改革を進めた。2022年度開始新教育カリキュラム実施のため、具体的な授業科目と担当者を決定し、学則改正を行いました。一方、COVID-19まん延の中、学ぶ環境を維持・継続するために積極的な支援を継続的に行いました。授業支援LMSを整備し、本格的な運用を開始しました。

(2) 総合教育研究センター開設

総合教育研究センターについて、「神戸薬科大学総合教育研究センター規程」、「神戸薬科大学総合教育研究センター運営委員会規程」を新設し、組織の見直しを行いました。2022年3月には、1号館内で分散していた統括部門と支援部門を4号館6階に集約し、総合教育研究センターを開設し4月からの学生支援体制を整えました。

(3) 総合教育研究センターで教育IR活用

2021年3月に卒業生にアンケートを実施し、分析をして2021年4月5日の教授会へ報告を行いました。

(4) 2022年度カリキュラム改正

COVID-19拡大による混乱のため実施時期を1年延長しましたが、2022年度4月に新カリキュラム開始をすることができました。新しいカリキュラムは、4つの基礎的能力「主体性」「行動力」「課題発見力」「答えのない課題に取り組む力」の養成に重点を置き、学力レベルに応じた指導を行えるものとしています。

(5) 本学の特徴的な教育の構築（ティーラーメイド型教育）—思考力、主体性、積極性を磨く教育

2022年度新カリキュラムの中で、特徴的な教育を推進します。

(6) 標準修業年限卒業での薬剤師国家試験合格率の向上（80%以上）

2021年度卒業者のうち、2022年2月実施第107回薬剤師国家試験の合格状況は、新卒者87.10%、総数81.51%でした。このうち標準修業年限国試合格者は63.77%でした。（昨年の標準修業年限国試合格者は67.39%、一昨年は73.83%）。目標の80%に向けて改善策の実行が必要と認識しています。

(7) 学修成果の可視化

COVID-19による混乱のため、未着手となっています。2022年度新カリキュラム開始にあわせ総合教育研究センターが中心となって検討します。

(8) ICTを活用した教育の推進

2021年度からLMSの本格的な運用を開始しました。オンライン上で資料の提供やアンケート、小テストの実施を行うことができるようになり、一定の教育効果をあげています。動画配信サービスとも連携し、コロナ禍の教育にも大きく活用されています。

(9) 遠隔授業対応システムの導入

オンデマンド型の講義では LMS と動画配信サービスが連携をしたシステム、ライブ配信型の講義では web 会議システムを積極的に活用しています。コロナ禍の中で、この遠隔授業対応システムは力を発揮することができました。

(10) 学長裁量経費 (5,000 千円) を活用した教育改革プログラムの展開

「薬用植物園を利用した教育－薬用植物園学生ガイドの育成－」「低学力学生に対する「理解」を中心に据えた新たな演習プログラムの構築」の 2 件の課題を採択し、前者に 15 万円、後者に 50 万円の交付を決定しました。この教育改革プログラムの成果は、2022 年 7 月 7 日に学長裁量経費教育改革プログラム共同研究公開報告会として発表いたします。

(11) カレッジ TOEIC L&R IP テストの受験補助の継続

2020 年度は COVID-19 の拡大による休校のため、前期は TOEIC の実施を見送り後期のみの実施でしたが、2021 年度は再び前後期の 2 回実施をしました。受験者数は前期 (6 月 5 日) 191 名、後期 (11 月 20 日) 128 名、合計 319 名でした。1 名あたりの受験料 4,000 円全額、大学で負担する支援を行っています。

(12) COVID-19 対策 講義室、実習室等の徹底した消毒作業と換気

2020 年度に引き続き、講義室、実習室等では徹底した消毒作業と換気を実施しました。

(13) 在学生及び卒業生の意見を採り入れた教育活動の改善

在学生には常時オンラインでアンケートを実施し意見を採り入れるよう、こころがけています。例えば 2021 年度には、2021 年 4 月に「新図書館に関するアンケート」、2021 年 9 月に「新型コロナウイルス感染症に伴う学修時間・学修行動の変化に関するアンケート」を実施しました。卒業生に対しても主に新卒者を対象に在学中の勉学に関してアンケートを実施しています。その結果を新 6 年次生に反映させ、授業の向上に役立てています。

(大学院)

(1) 3 つのポリシーに基づく教育改革の継続的展開

学部と同じく大学院においても、大学の理念、教育目標及び 3 つのポリシー (①アドミッション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③ディプロマ・ポリシー) を基本に据えて改革を進めました。

(2) 大学院活性化方策の推進

薬剤師レジデント制度を活用した新しい大学院博士課程コース「研究志向型薬剤師レジデントコース」の新設に取り組みました。2023 年度入学生の応募選考を 2022 年度から開始します。

(3) ICT を活用した教育の推進

学部学生に比べて大学院は学生数が少ないため ICT の効果が出にくいですが、有効な方策を引き続き検討していきます。

2. 研究に関する計画

(1) 学長裁量経費（20,000 千円）に基づく学内共同研究プログラム（神戸大学大学院医学研究科との連携を含む）の展開

学長裁量経費に基づく学内共同研究として 14 件のプログラムを採択し、19,920 千円を研究支援経費として配分しました。14 件のうち 6 件は神戸大学大学院医学研究科との共同研究です。

(2) 学外共同研究の推進

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）や国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業に積極的に関与し、複数の研究室が事業に参加し研究活動の推進が図れました。特筆すべきは、若手助教が 2021 年度の科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業「さきがけ」に採択されたことです。「さきがけ」は、科学技術イノベーションの原泉となる新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを世界に先駆けて創出することを目的として、研究者が個人で研究を推進するプログラムです。高い競争倍率の中（応募した研究領域では、116 件の応募に対して 10 件が採択）見事に採択されました。

(3) 競争的外部資金の獲得

科学研究費助成事業についても継続的に申請し、先進的な研究課題に積極的に取り組み 48 件（83,720 千円）が採択されました。

学長裁量経費に基づく学内共同研究で選出された研究内容を学術研究振興資金へ申請し、1,500 千円の交付を受けました。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から 8,710 千円、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）から 8,359 千円の交付を受けました。

(4) 研究支援体制の整備

企画・広報課のシニア・リサーチ・アドミニストレーターを中心に研究支援体制の整備に取り組みました。2021 年 3 月には受託研究規程を新設しました。2021 年度中は企画・広報課で多くの共同研究契約書を締結する等、研究支援に取り組みました。

(5) 研究不正防止の徹底

文部科学省のガイドラインに従い、四半期毎に啓発活動を行う等、研究不正防止に取り組みました。

(6) 公的研究費を含む研究費不正使用防止の徹底（ガバナンスの強化、意識改革、不正防止システムの強化）

研究不正防止委員会、監事、内部監査室で連携を取り合い、研究不正防止の徹底に努めました。2021 年 8 月にはコンプライアンス推進責任者・研究倫理教育責任者が研究不正防止説明会を開催し、全員から誓約書の提出を受けるとともに理解度チェックテストを行いました。

(7) 知的財産権利化の積極的推進

海外企業への成果有体物移転と有償での成果有体物移転契約について、昨年度に引き続き海外企業と交渉を行いました。

(8) 安全保障輸出管理の徹底

経済産業省の安全保障輸出管理アドバイザー派遣事業に参加し、外部の指導を受けながら安全保障輸出管理の適正な対応に取り組みました。

(9) 臨床現場との連携による臨床研究推進

2021年7月、2022年3月に薬科大学と臨床現場をつなぐセミナーを開催しました。7月はコロナの感染状況も治まっている時期であり対面とweb会議システムを併用したハイブリッド形式で実施、3月はコロナ感染第6波の時期であったのでweb会議システムのみで開催をしました。

3. 学生支援に関する計画

(学生生活支援の強化)

(1) COVID-19の影響による就学困難学生の支援

コロナで陽性判定された学生が発生したとき、あるいは家族の感染などで濃厚接触者となった学生が発生したときには迅速に状況確認を行い感染の拡大を未然に防ぐことができました。結果、2021年度のクラスター発生はありませんでした。就学困難な学生には奨学金をはじめ様々な支援を行いました。

(2) 奨学金、高等教育の修学支援新制度における授業料減免を含めた修学サポート

COVID-19の影響で経済的影響を受け困窮している学生を支援するため、国の「高等教育の修学支援新制度」、2020年度に引き続き本学独自の「応急援助奨学生制度」の新型コロナウイルス感染症による家計急変への対応拡充、授業料納付期限や延納期限の延長など、積極的に学生支援を行いました。2021年度後期には応急援助奨学生制度のさらなる拡充（所得の減少割合を50%以上から40%以上へ拡充）を行い、応急援助奨学金として13名へ総額11,400千円（うち新型コロナウイルス感染症対策は11名、9,600千円）を給付しました。

(3) カウンセリングの充実

学生相談室では、昨年度に始めたweb会議システムによる遠隔カウンセリングと対面によるカウンセリングを継続して行いました。

(4) 学生自治会のサポート

コロナ禍におけるクラブ、同好会活動の再開を支援するため、2021年に「神戸薬科大学のクラブ・同好会活動における行動基準」を設定しました。

(5) 学生食堂の混雑緩和についての検討

2021年度は前年度に引き続き、COVID-19対策を第一に考えて、神戸薬科大学生活協同組合により学生食堂の営業が行われました。混雑緩和については、時期をみて改めて検討します。

(キャリア支援の強化)

(1) キャリア支援プログラムの充実と面談を中心としたキャリア支援の推進

【全学年対象】

- ・ 11/6 (土)
- 保護者のための就職ガイダンス《対面》
- ・ 11/17 (水) ～11/18 (木)
- 3 薬科大学「合同業界研究セミナー」《オンライン LIVE 形式》
- ・ 2/5 (土) ～2/6 (日)
- 「企業研究フェア」(製薬企業、CRO、SMO、化粧品関連企業)《オンライン LIVE》
- ・ 3/9 (水) ～3/10 (木)
- 「就職フェア」(病院・官公庁・薬局)《オンライン LIVE 形式》

【5年次生対象】

- ・ 11/11 (木)
- 「就活メイクアップ」実践トレーニング《対面》
- ・ 11/15 (月)
- 「履歴書・エントリーシート対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》
- 薬学生のための「面接対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》
- 「集団面接・グループディスカッション」実践トレーニング《対面》

【4～5年次生対象】

- ・ 4/5 (月)
- インターンシップキックオフセミナー《対面とオンライン配信のハイブリッド》
- ・ 4/12 (月)
- 「インターンシップ」エントリーシートの書き方ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》
- ・ 5/13 (木)
- インターンシップ参加のための選考対策講座《オンライン LIVE 形式》
- ・ 5/14 (金)
- SPI3 能力検査 受検会《対面》
- ・ 6/26 (土)
- 就活実践セミナー《オンライン LIVE 形式》
- 「履歴書・エントリーシート」実践トレーニング《自宅受検》
- ・ 11/9 (火)
- 3 薬科大学「合同オンライングループディスカッション」《オンライン LIVE 形式》
- ・ 11/10 (水)
- 仕事研究講座Ⅰ (アストラゼネカ株式会社、株式会社リニカル)《対面》
- 仕事研究講座Ⅱ (沢井製薬株式会社)《対面》
- ・ 11/11 (木)
- 仕事研究講座Ⅲ (中外製薬株式会社)《対面》

・12/14 (火)

3 薬科大学「合同オンライングループディスカッション」《オンライン LIVE 形式》

・12/15 (水)

SPI3 能力検査 受検会《対面》

・2/16(水)

第1回 病院就活ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》

病院志望者のための「病院選び方講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

病院・公務員志望者のための「小論文対策講座」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・3/12 (土)

第2回病院就活ガイダンス (病院で働いている先輩から実際に話を聞こう)《対面》

・3/15 (火)

公務員ガイダンス《対面とオンライン配信のハイブリッド》

【新5年次生 (4年次生) 対象】

・2/1 (火)

就活キックオフセミナー2022《対面》

【1~4年次生対象】

・5/17 (月)

第1回「キャリアガイダンス」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・6/7 (月)

第2回「キャリアガイダンス」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・9/4 (土)

3 薬科大学合同「公務員職種理解セミナー」《オンライン LIVE 形式》

・9/27 (月)

第3回「キャリアガイダンス」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

・10/11 (月)

第4回「キャリアガイダンス」《対面とオンライン配信のハイブリッド》

【1~3年次生対象】

・9/15 (水)

5 社5 大学共同企画「製薬企業理解セミナー」《オンライン LIVE 形式》

【大学院生】

・12/15 (水)

大学院就活スタートアップセミナー《対面》

SPI3 能力検査 受検会《対面》

【単位制インターンシップ】

・4/6（火）、1/28（金） 4年次・5年次毎

単位制（大学推薦制・公募制）インターンシップ受講説明会《対面》

・4/9（金）、1/28（金） 4年次・5年次毎

ビジネスマナー講座《対面》

・6/19（土）

単位制（大学推薦制・公募制）インターンシップ 学内選考会（面接）《対面》

・6/26（土）

単位制（大学推薦制・公募制）インターンシップ 事前説明会・報告会うちあわせ会《対面》

・10/30（土）

単位制（大学推薦制・公募制）インターンシップ 報告会・情報交換会《対面》

今年度も、対面とオンラインのハイブリッドを主とし、各種就職関連イベントを実施しました。COVID-19 対策を継続しつつ、学生同士のディスカッションや、ワークの機会が持てるよう、対面とオンラインの使い分けを工夫しています。

就職活動の早期化で、日程の前倒しが各業界で行われていることから、行事の見直しや実施時期を検討し、柔軟な対応を心掛けています。

(2) 単位制インターンシップの充実

昨年度中止となった単位制インターンシップを再開し、26名の学生が参加しました。

(3) COVID-19 対策のためのオンライン支援

2021年度に続き、メール、オンライン、対面の様々な形態で学生のキャリア支援、相談を行いました。学生支援センター内にプライベートボックスを設置し、オンラインでの就職面談にもできるかぎり対応しました。

(4) 新規就職先、求人先の開拓

COVID-19 まん延の影響で求人先の訪問が難しくなる中、メール、オンラインを駆使して就職先・求人先の確保に努めました。

(5) 大学院進学支援の強化及び大学院生就職先の開拓

就職フェア（オンラインLIVE形式）に大学院が出展し、大学院進学に学生が興味を持ちました。2021年12月に、「大学院生就活スタートアップセミナー」を実施しました。博士号取得者のキャリアや、SPI3の活用実態を取り上げ、薬学人材が社会で求められる力について説明しました。また、文部科学省主催「ジョブ型研究インターンシップ」への参加を呼びかけ、これまでにない学生の新たな進路の可能性を広げることができるよう、サポート体制を強化しました。

(6) キャリアコンサルタント国家資格の取得奨励

「きめ細かく、手厚い支援」を実践するために、キャリア支援課員は引き続きキャリアコンサルタント国家資格の取得を目指します。

4. 学生募集に関する計画

「2022 年度入学試験結果について」

入試形態	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
学校推薦型選抜 指定校制	48 (55)	48 (55)	48 (55)	48 (55)
学校推薦型選抜 公募制	494 (554)	490 (550)	210 (168)	83 (60)
一般選抜 大学入学共通テスト利用	292 (397)	291 (397)	126 (141)	4 (8)
一般選抜 前期	777 (756)	733 (729)	367 (315)	114 (88)
一般選抜 中期	408 (372)	236 (256)	79 (73)	54 (32)
一般選抜 後期	184 (199)	173 (187)	25 (44)	17 (34)
合計	2,203 (2,333)	1,971 (2,174)	855 (796)	320 (277)

単位：人

()は前年度を示す

<概要> 志願者総数は、前年比 94%でした。学校推薦型選抜と一般選抜（大学入学共通テスト利用）は前年割れとなりましたが、本学独自入試の一般選抜（前期）が 103%、一般選抜（中期）が 110%と増加しました。また、入学率（入学者数÷合格者数）は 3 ポイント回復し、37.4%に改善しました。

(1) 特待生入試制度を活用した優秀な学生の確保

一般選抜前期における成績上位者 5 名について、年間授業料金額 1,800 千円、在学中最大 7,200 千円を全額給付する特待生入試制度を導入して 2 年目となる 2022 年度入学試験で 1 名の特待生入学者を迎えました。引き続きこの制度を活用して優秀な学生の確保に努めます。

(2) 入試制度の見直し

2022 年度入学試験では新しく入学金延納制度を導入しました。受験生の経済的負担軽減を目的として、一般選抜前期の合格者が併願する国公立大学前期日程試験の合格発表まで入学手続きを延長するものです。合格者の内、3 割に相当する 111 名の受験生がこの制度を利用しました。

(3) 入試広報の積極的展開

入試課で担当している入試広報と企画・広報課で担当している大学広報の連携をしっかりと、ホームページ情報更新や新聞、雑誌媒体の広告を積極的に展開しました。大学案内

のデザインを一新、ビジュアル面でアピールを狙い、結果、例年以上に大学案内を頒布することにつながりました。

(4) 教職協働による高校への広報活動の強化

2021 年度も COVID-19 拡大のため、高校への訪問活動に制限がかかりました。訪問先高等学校の事情が許す限り地道に高校訪問等の活動を行いました。「薬学への誘い」など、教員も活動に参加をしました。

(5) 大学院生の確保及び定員の充足

2021 年 11 月に、「大学院生と学部生との交流会」を行いました。この企画は本学に在籍する大学院生の発案で開催されたもので、参加した学部学生は、研究、進路・就職等、普段抱えている疑問や質問を大学院生から熱心に聞いていました。2022 年度の大学院入学者は、修士課程が 2 名（収容定員 5 名）、博士課程が 3 名（収容定員 3 名）でした。

5. キャンパス整備及び施設・設備に関する計画

(キャンパス整備)

(1) 魅力的かつ合理的なキャンパスデザインの策定（新棟建設を含む）

耐震化 100%に向けたキャンパス整備計画を進めました。2,3,9 号館及び守衛室の解体工事を開始しました。

(2) 高い教育レベルの薬学教育を可能とする ICT を活用した学修環境の検討

ICT 能力に優れた事務職員を採用し、課長補佐として情報支援室に配置しました。今後、効果的な ICT を活用した環境整備を行います。

(施設関係)

(1) 2 号館、3 号館、9 号館 解体

2021 年度に 2 号館、守衛室、3 号館の解体工事を開始しました。2022 年度に 9 号館の解体工事をを行います。

(2) 4 号館総合教育研究センター改修

2022 年 2 月に総合教育研究センター、統括部門と支援部門を 4 号館 6 階へ移転しました。

(3) 学生ファーストの新 2・3 号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）の建設

建築委員会を中心に、新しい建物の仕様を検討しました。また、新 2・3 号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）の正式名称を A 棟及び防災管理センターと決定しました。あわせて、A 棟運用開始とともにキャンパス内建物名称を（数）号館から（アルファベット）棟に改称することとしました。

(設備関係)

(1) 5 号館設備修繕

トイレ洗面台の自動水栓化を行いました。また、給湯用膨張タンク、及びガス吸収式温水器部品を更新しました。

(2) 6号館熱源機器修繕

屋上チラーの保全整備、及び各種センサーを更新しました。

(3) 11号館他消防設備修繕

11号館火災報設備受信機を更新しました。また、4号館消火水槽の電極、及び消火補給水槽配管を更新しました。

(4) 動物実験施設ケージウォッシャー設置

ケージ洗浄を自動化しました。

(5) 事務用サーバー更新

本体のハードウェアがサポート切れとなっていた事務用サーバーを2021年12月に仮想サーバーへ移行しました。

6. 社会連携事業に関する計画

(1) 地域連携サテライトセンターのICTを活用した事業展開

- ・「健康サポートセミナー」(神戸市東灘区との共催事業)の開催
- ・「くすりと健康セミナー」(神戸市東灘区薬剤師会との共催事業)の開催
- ・「地域健康サポートカフェ(がんメディカル・カフェ)」の開催
- ・「ひがしなだキッズサイエンススクール」(東灘区・甲南大学との連携事業)への参画

COVID-19に伴う緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出を考慮しながら、各種事業を順次再開しました。まん延防止等重点措置が適用されているときは対面での事業は中止とし、それ以外の時期でもオンラインと対面を併用する等、感染対策にできるだけ対策をしながら各種事業を行いました。

(2) 神戸大学との連携推進

学長裁量経費に基づく学内共同研究として14件のプログラムを採択し、19,920千円を研究支援経費として配分しました。14件のうち6件は神戸大学大学院医学研究科との共同研究です。

(3) 甲南女子大学との連携推進

甲南女子大学との連携科目である「在宅医療演習」をオンラインで開催しました。

(4) 東灘次世代医療人材育成コンソーシアムの参画

コンソーシアムが中心となり、新型コロナウイルスのワクチン職域接種を実施しました。

(5) 薬剤師生涯研修支援でICTを活用した事業展開

- ・生涯研修認定制度(G07)研修会の開催

COVID-19の収束が見えないため、エクステンションセンターではe-learning講座を主事業として開催をしました。2020年度に行ったノウハウをさらに改善し、受講者が申込みをしやすいう、サイトの各ページやe-learningシステムのバージョンアップを行いました。

- ・健康食品領域研修認定薬剤師制度(P05)研修会の開催

P05の講座もG07の講座と同様にe-learning講座として実施しました。エクステンションセンターe-learning講座は、薬事日報(2021年4月19日)の記事にもなり、多くの薬剤師

から関心をもって注目されています。

(6) 国際交流

- ・マサチューセッツ薬科健康科学大学 (MCPHS) との交流 (「海外薬学研修」の実施、訪問またはオンライン)
- ・新たな国際交流の構築—アジア、欧米地域との交流

COVID-19 の患者が減らないため、米国ボストンを訪問する海外薬学研修はオンラインでの開催となりました。オンラインの授業では、米国の薬剤師、アジアの薬剤師にもオンデマンドで参加をして頂き、学生は熱心に受講をしました。

7. 広報活動に関する計画

- (1) ブランド力強化を目的とした戦略的広報活動の展開「2021 神研プロジェクト」神戸薬科大学の研究力をブランドとして、キャッチコピー「真剣に神研しよう」とした神研プロジェクトを企画し広報活動を行いました。9 月には 2022 年 4 月 1 日付、学長交代をプレスリリースしました。
- (2) ホームページ・SNS などを活用した積極的な情報発信
「神研プロジェクト」をホームページ上でも企画、展開し、大学のブランド向上を行いました。SNS では、Twitter で積極的な情報発信を行いました。
- (3) 校章・コミュニケーションマーク・ロゴタイプを積極的に活用したブランドの浸透
90 周年記念事業委員会で 90 周年記念サイトを作成し 2022 年 4 月 1 日に公開しました。また、90 周年ロゴマークの入った記念名刺の作成をしました。

8. 自己点検・評価に関する計画

- (1) 学校法人運営調査結果 (文部科学省) で提出した改善報告書内容の取り組み
文部科学省の調査実施時に問題とされた教授の人数については、すでに改善されています。今後の教授の人員については設置基準の遵守に努めます。
- (2) 大学基準協会実地調査で提出した改善報告書内容の取り組み
前項の回答と同じく、大学基準協会実地調査時点で問題のあった教授の人数については、すでに改善されています。また、満期退学者に課程博士を与えていた点についても論文博士として取り扱うことに運用を改め、改善されました。
- (3) 薬学教育評価機構「大学への提言」に対する改善報告についての審議結果に対する取り組み
前項薬学教育評価機構へ改善報告書を提出済みであり、すでに改善が行われたものとして、薬学教育評価機構のホームページにも公開されています。
(https://www.jabpe.or.jp/special/result_28_1.html)

9. 管理・運営・財政基盤強化に関する計画

(1) 管理・運営の基盤強化

・人材の積極的採用・登用

人材採用について、教育職員は、2021年度に教授、講師、特任助教の各層の採用を行いました。事務職員では、事務職員等の採用に関する内規を新設するとともに、ICT能力に優れた事務職員を採用し、課長補佐として情報支援室に配置しました。

・働き方改革の推進

2020年度に導入したタイムレコーダーを活用し、長時間労働の抑制、休日出勤及び振替休日取得の管理に取り組みました。

・一般事業主行動計画の改定（次世代育成支援対策推進法及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の取り組み）

行動計画の改定に取り組み、2022年4月1日に大学ホームページへ公開しました。

(https://www.kobepharma-u.ac.jp/guide/compliance/action_plan.html)

(2) 財政の基盤強化

・経常経費を含めた支出の見直し

2022年度の予算編成にあたっては、大学運営会議で慎重に議論を重ね支出の見直しを行いました。

・競争的外部資金の獲得

競争的外部資金の獲得向上のため、科学研究費について申請書のブラッシュアップを行いました。また、JSTやAMED事業にも応募を行いました。

・積極的な補助金の獲得

新棟建設にあたり、学校施設耐震改修事業補助金獲得のため、文部科学省と粘り強い交渉を行いました。

・90周年記念事業推進委員会の発足と募金活動

90周年記念事業として、ロゴマークの制定、90周年記念ネームプレート作成、90周年記念サイトの公開 (<https://www.kobepharma-u.ac.jp/90th-anniversary/>)、90周年記念名刺の作成を行いました。募金事業については、コロナ禍である事情を考慮し90周年として募金活動は行わず、「神戸薬科大学教育研究資金」「新型コロナウイルス感染症対策基金」の2種類を展開し、法人・個人からの募金を受け付けました。

(3) IR (Institutional Research) の活用

・IRを用いた客観的、合理的なデータに基づいた施策（教育改善、学生支援、経営戦略）の実行

総合教育研究センターの本格的な活動開始に伴い、今後IRを用いた分析と施策を行います。

・PDCAサイクルの展開

自己点検・評価委員会で議論を行い、「内部質保証に関する基本的な考え」「内部質保証関係図」を定め、教授会で周知しました。

(4) 組織運営の見直しと職員評価の整備

- ・意思決定方法の改善（会議マネジメントの構築）

理事会、評議員会、経営戦略会議、大学運営会議、教授会、教授会下部組織各種委員会、教学マネジメント会議、等々の会議を頻繁に開催し、理事長・学長の意思を広く教職員で共有、実行していくことに努めました。

- ・客観的評価を採り入れた教育職員評価制度の導入

2年間のトライアルを経て、2022年度から教育職員評価制度の実施を開始することとしました。

これ以外にも、各種ハラスメント防止等に関する規程を整備し、外部相談窓口を設置する等、改革を行いました。

(5) 人材の育成とダイバーシティ

- ・ファカルティ・ディベロップメントによる教育内容・方法の改善・向上

2021年7月19日および2022年3月11日にFD講演会を開催し、教育内容と方法の改善、向上に取り組みました。

- ・スタッフ・ディベロップメントの積極的な取り組み

2021年11月29日および2022年3月14日に全教職員を対象としたSD研修会を実施しました。また、2021年12月3日および2022年3月30日に管理職を対象としたSD研修会を実施しました。

- ・留学支援（教育職員）及び国内研修等支援（事務職員）制度の導入

COVID-19の影響が収まらないため、留学支援や国内研修は制限される状況であり、2021年度の実施は行いませんでした。

- ・女性が活躍できる雇用環境の整備と障害者雇用の推進

女性が活躍する雇用環境整備については、「育児休業等に関する規程」及び「介護休業等に関する規程」を改正しました。障害者雇用については、引き続き雇用活動に取り組んでいきます。

以上

Ⅲ 財務の概要

1. 事業の予算執行

2021年度予算の執行にあたっては、従来に引き続き効率的な予算執行と節約に努めた。経常的事業以外に、2021年度に執行した新規事業の主なものは次のとおりである。

・ 2号館、3号館解体	160,029 千円
・ 新2・3号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）新築	79,303 千円
・ 4号館総合教育研究センター改修	17,000 千円
・ 動物実験施設ケージウォッシャー設置	10,560 千円
・ キャンパス整備関係計	266,892 千円
・ 業務用サーバ・ウイルスチェックサーバ更新	8,480 千円
・ 5号館設備整備修繕	6,045 千円
・ 11号館他消防設備修繕	4,637 千円
・ 4号館共用部他LED照明更新	3,784 千円
・ 6号館熱源機器修繕	3,685 千円
	他

2. 法人会計決算

(1) 資金収支計算書

収入面では、収入の大半を占める学生生徒等納付金収入を含め大半の科目が予算額を上回ったが、キャンパス整備計画の工期遅延による新2・3号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）新築工事に伴う特定資産取崩の計上が次年度にずれ込みその他の収入が予算額を大幅に下回ったため、前年度繰越支払資金を含む収入の合計は5,288百万円と予算額を671百万円下回った。一方、支出面では、キャンパス整備計画の工期遅延により2号館、3号館、9号館解体や新2・3号館（仮称）及び防災管理センター（仮称）新築工事の支出が次年度にずれ込んだことにより、教育研究費支出、施設関係支出が予算額を大きく下回ったため、支出の合計は3,803百万円と予算額を1,418百万円下回り、その結果、翌年度繰越支払資金は予算額を746百万円上回る1,429百万円となった。

(2) 事業活動収支計算書

教育活動収支、教育活動外収支、特別収支とも各々222百万円、41百万円、3百万円の収入超過であったため、基本金組入前当年度収支は265百万円の収入超過を確保した。基本

金組入額 383 百万円を控除した当年度収支は 118 百万円の支出超過となったが、前年度繰越収支を加えた最終的な翌年度繰越収支は 424 百万円の収入超過となった。

(3) 貸借対照表

資産総額は、有形固定資産において減価償却の進捗がある一方で、第 2 号基本金引当特定資産を含む各種特定資産の積み増しを行った結果、合計では 270 百万円増加し、26,922 百万円となる一方、負債総額は 5 百万円増加し、1,472 百万円となり、期末純資産額（資産総額－負債総額）は前年度に比べ 266 百万円増加し 25,450 百万円となった。

資 金 収 支 計 算 書

第一号様式（第12条関係）

2021年 4月 1日 から
2022年 3月31日 まで

（単位 円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,134,200,000	3,187,496,000	△ 53,296,000
手数料収入	89,200,000	87,475,400	1,724,600
寄付金収入	15,000,000	29,789,520	△ 14,789,520
補助金収入	292,800,000	344,617,660	△ 51,817,660
資産売却収入	0	3,105	△ 3,105
付随事業・収益事業収入	27,500,000	37,590,000	△ 10,090,000
受取利息・配当金収入	39,600,000	41,266,077	△ 1,666,077
雑収入	49,200,000	67,961,439	△ 18,761,439
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	389,300,000	448,293,940	△ 58,993,940
その他の収入	1,023,600,000	41,080,800	982,519,200
資金収入調整勘定	△ 406,300,000	△ 456,022,515	49,722,515
前年度繰越支払資金	1,275,300,000	1,428,617,735	△ 153,317,735
収 入 の 部 合 計	5,929,400,000	5,258,169,161	671,230,839
支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,674,300,000	1,539,587,145	134,712,855
教育研究経費支出	1,572,200,000	1,173,026,768	399,173,232
管理経費支出	310,300,000	218,363,452	91,936,548
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,212,000,000	98,080,678	1,113,919,322
設備関係支出	115,100,000	122,531,459	△ 7,431,459
資産運用支出	325,000,000	628,001,037	△ 303,001,037
その他の支出	47,500,000	65,173,221	△ 17,673,221
〔予備費〕	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△ 56,000,000	△ 41,870,878	△ 14,129,122
翌年度繰越支払資金	709,000,000	1,455,276,279	△ 746,276,279
支 出 の 部 合 計	5,929,400,000	5,258,169,161	671,230,839

活動区分資金収支計算書

2021年 4月 1日 から
2022年 3月31日 まで

第四号様式（第14条の2関係）

(単位 円)

科目		金額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	3,187,496,000
	手数料収入	87,475,400
	特別寄付金収入	5,000,000
	一般寄付金収入	24,789,520
	経常費等補助金収入	332,957,660
	付随事業収入	37,590,000
	雑収入	67,961,439
	教育活動資金収入計	3,743,270,019
	支出	
	人件費支出	1,539,587,145
	教育研究経費支出	1,173,026,768
	管理経費支出	218,363,452
	教育活動資金支出計	2,930,977,365
差引	812,292,654	
調整勘定等	6,627,669	
教育活動資金収支差額	818,920,323	
科目		金額
設 整 備 等 活 動 に よ る 資 金 収 支	収入	
	施設設備寄付金収入	0
	施設設備補助金収入	11,660,000
	施設設備売却収入	0
	施設整備等活動資金収入計	11,660,000
	支出	
	施設関係支出	98,080,678
	設備関係支出	122,531,459
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	300,000,000
	減価償却引当特定資産繰入支出	300,000,000
	施設整備等活動資金支出計	820,612,137
	差引	△ 808,952,137
	調整勘定等	6,479,000
	施設整備等活動資金収支差額	△ 802,473,137
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	16,447,186	
科目		金額
そ の 他 の 活 動 に よ る 資 金 収 支	収入	
	借入金等収入	0
	有価証券売却収入	3,105
	退職給与引当特定資産取崩収入	1,001,000
	研究充実準備積立金取崩収入	11,000,000
	奨学金引当特定資産取崩収入	1,000,000
	小計	13,004,105
	受取利息・配当金収入	41,266,077
	その他の活動資金収入計	54,270,182
	支出	
	借入金等返済支出	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	2,001,037
	研究充実準備積立金繰入支出	25,000,000
	奨学金引当特定資産繰入支出	1,000,000
	預り金支払支出	16,057,787
	小計	44,058,824
	借入金等利息支出	0
	その他の活動資金支出計	44,058,824
	差引	10,211,358
調整勘定等	0	
その他の活動資金収支差額	10,211,358	
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	26,658,544	
前年度繰越支払資金	1,428,617,735	
翌年度繰越支払資金	1,455,276,279	

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支計算書計 上額	教育活動による資 金収支	施設整備等活動に よる資金収支	その他の活動によ る資金収支
授業料等前受金収入	447,870,000	447,870,000	0	0
その他前受金収入	423,940	423,940	0	0
前期末未収入金収入	28,079,800	3,220,800	24,859,000	0
期末未収入金	△ 37,947,305	△ 20,029,305	△ 17,918,000	0
前期末前受金	△ 418,075,210	△ 418,075,210	0	0
収入計	20,351,225	13,410,225	6,941,000	0
前期末未払金支払支出	46,797,334	46,335,334	462,000	0
前払金支払支出	2,318,100	2,318,100	0	0
期末未払金	△ 38,504,643	△ 38,504,643	0	0
前期末前払金	△ 3,366,235	△ 3,366,235	0	0
支出計	7,244,556	6,782,556	462,000	0
収入計 - 支出計	13,106,669	6,627,669	6,479,000	0

事業活動収支計算書

2021年 4月 1日 から
2022年 3月31日 まで

第五号様式（第23条関係）

(単位 円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,134,200,000	3,187,496,000	△ 53,296,000
	手数料	89,200,000	87,475,400	1,724,600
	寄付金	15,000,000	29,789,520	△ 14,789,520
	経常費等補助金	292,800,000	326,699,660	△ 33,899,660
	付随事業収入	27,500,000	37,590,000	△ 10,090,000
	雑収入	49,200,000	67,961,439	△ 18,761,439
	教育活動収入計	3,607,900,000	3,737,012,019	△ 129,112,019
教育活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	人件費	1,662,300,000	1,538,586,145	123,713,855
	教育研究経費	2,051,400,000	1,662,126,926	389,273,074
	管理経費	403,500,000	314,614,850	88,885,150
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	4,117,200,000	3,515,327,921	601,872,079
	教育活動収支差額	△ 509,300,000	221,684,098	△ 730,984,098
教育活動外収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	受取利息・配当金	39,600,000	41,266,077	△ 1,666,077
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	39,600,000	41,266,077	△ 1,666,077
	科 目	予 算	決 算	差 異
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	39,600,000	41,266,077	△ 1,666,077
	経常収支差額	△ 469,700,000	262,950,175	△ 732,650,175
特別収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産売却差額	0	3,061	△ 3,061
	その他の特別収入	0	37,736,131	△ 37,736,131
	特別収入計	0	37,739,192	△ 37,739,192
	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産処分差額	257,700,000	35,132,766	222,567,234
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	257,700,000	35,132,766	222,567,234
	特別収支差額	△ 257,700,000	2,606,426	△ 260,306,426
	[予備費]	20,000,000		20,000,000
	基本金組入前当年度収支差額	△ 747,400,000	265,556,601	△ 1,012,956,601
	基本金組入額	△ 300,000,000	△ 383,089,983	83,089,983
	当年度収支差額	△ 1,047,400,000	△ 117,533,382	△ 929,866,618
	前年度繰越収支差額	△ 29,600,000	541,971,250	△ 571,571,250
	基本金取崩額	452,600,000	0	452,600,000
	翌年度繰越収支差額	△ 624,400,000	424,437,868	△ 1,048,837,868
	(参考)			
	事業活動収入計	3,647,500,000	3,816,017,288	△ 168,517,288
	事業活動支出計	4,394,900,000	3,550,460,687	844,439,313

貸借対照表

第七号様式（第35条関係）

2022年 3月31日

（単位 円）

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	25,424,816,444	25,189,870,505	234,945,939
有形固定資産	11,397,466,106	11,777,520,160	△ 380,054,054
土地	700,025,026	700,025,026	0
建物	8,712,938,120	9,041,940,087	△ 329,001,967
構築物	277,984,353	299,664,660	△ 21,680,307
教育研究用機器備品	622,450,069	691,903,788	△ 69,453,719
管理用機器備品	71,367,240	81,163,744	△ 9,796,504
図書	933,869,117	962,074,855	△ 28,205,738
車両	374,000	748,000	△ 374,000
建設仮勘定	78,458,181	0	78,458,181
特定資産	14,021,982,071	13,406,982,034	615,000,037
第2号基本金引当特定資産	3,633,000,000	3,333,000,000	300,000,000
第3号基本金引当特定資産	958,191,695	956,190,658	2,001,037
減価償却引当特定資産	7,625,364,257	7,325,364,257	300,000,000
第4号基本金引当特定資産	248,834,000	248,834,000	0
退職給与引当特定資産	797,892,119	798,893,119	△ 1,001,000
研究充実準備積立金	30,700,000	16,700,000	14,000,000
教育充実準備積立金	720,000,000	720,000,000	0
奨学金引当特定資産	8,000,000	8,000,000	0
その他の固定資産	5,368,267	5,368,311	△ 44
電話加入権	1,325,117	1,325,117	0
有価証券	4,043,150	4,043,194	△ 44
流動資産	1,498,038,819	1,462,560,905	35,477,914
現金預金	1,455,276,279	1,428,617,735	26,658,544
未収入金	37,947,305	28,079,800	9,867,505
前払金	4,815,235	5,863,370	△ 1,048,135
資産の部合計	26,922,855,263	26,652,431,410	270,423,853
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	797,892,119	798,893,119	△ 1,001,000
退職給与引当金	797,892,119	798,893,119	△ 1,001,000
流動負債	674,038,574	668,170,322	5,868,252
未払金	38,504,643	46,797,334	△ 8,292,691
前受金	448,293,940	418,075,210	30,218,730
預り金	187,239,991	203,297,778	△ 16,057,787
負債の部合計	1,471,930,693	1,467,063,441	4,867,252
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	25,026,486,702	24,643,396,719	383,089,983
第1号基本金	20,186,461,007	20,105,372,061	81,088,946
第2号基本金	3,633,000,000	3,333,000,000	300,000,000
第3号基本金	958,191,695	956,190,658	2,001,037
第4号基本金	248,834,000	248,834,000	0
繰越収支差額	424,437,868	541,971,250	△ 117,533,382
翌年度繰越収支差額	424,437,868	541,971,250	△ 117,533,382
純資産の部合計	25,450,924,570	25,185,367,969	265,556,601
負債及び純資産の部合計	26,922,855,263	26,652,431,410	270,423,853

注記 1. 重要な会計方針

引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額 999,300,000 円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし。

3. 減価償却額の累計額の合計額 8,788,994,901 円

4. 徴収不能引当金の合計額 0 円

5. 担保に供されている資産はない。

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 0 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(2022年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	6,201,342,903	6,300,550,401	99,207,498
(うち満期保有目的の債券)	(6,197,299,753)	(6,271,900,000)	(74,600,247)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	2,200,000,000	2,190,440,000	△ 9,560,000
(うち満期保有目的の債券)	(2,200,000,000)	(2,190,440,000)	(△ 9,560,000)
合 計	8,401,342,903	8,490,990,401	89,647,498
(うち満期保有目的の債券)	(8,397,299,753)	(8,462,340,000)	(65,040,247)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	8,401,342,903		

② 明細表

(単位 円)

種類	当年度(2022年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	8,397,299,753	8,462,340,000	65,040,247
株式	4,043,150	28,650,401	24,607,251
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	8,401,342,903	8,490,990,401	89,647,498
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	8,401,342,903		

3. 財務運営の状況

当法人の過年度の財務運営の状況及び主要財務比率は以下のとおりである。

(1) 財務運営の状況

- ・ 資金収支の状況 (P32)
- ・ 活動区分資金収支の状況 (P33)
- ・ 事業活動収支の状況 (P34)
- ・ 貸借対照表 (P35)

(2) 財務比率表 (P36)

(3) 財務比率を用いた経営状況の分析 (P37)

(4) 財産目録 (P38)

過去5年間の財務比較

財務運営の状況 : 資金収支の状況

- 神戸薬科大学 -

(単位: 千円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115	3,187,496
手数料収入	112,569	104,154	97,983	87,793	87,475
寄付金収入	29,011	27,071	16,918	48,604	29,790
補助金収入	253,124	260,439	244,323	349,268	344,618
資産売却収入	10,000	48,800	0	132,000	3
付随事業・収益事業収入	45,324	46,794	33,477	34,970	37,590
受取利息・配当金収入	50,553	49,456	43,380	41,435	41,266
雑収入	141,417	151,692	140,629	44,202	67,961
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	383,810	417,946	399,852	418,075	448,294
その他の収入	136,513	147,531	156,011	202,578	41,081
資金収入調整勘定	△	△	△	△	△
前年度繰越支払資金	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,618
合計	5,334,898	5,466,920	5,112,555	5,488,455	5,258,169
支出の部					
人件費支出	1,638,755	1,636,190	1,634,433	1,491,513	1,539,587
教育研究経費支出	952,299	998,967	1,072,953	960,602	1,173,027
管理経費支出	209,339	308,712	228,017	217,788	218,363
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	154,571	385,915	41,477	210,042	98,081
設備関係支出	215,275	161,921	212,040	207,861	122,531
資産運用支出	676,292	686,610	557,334	906,864	628,001
その他の支出	47,240	45,507	62,345	115,186	65,173
資金支出調整勘定	△	△	△	△	△
前年度繰越支払資金	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617	1,455,276
合計	5,334,898	5,466,920	5,112,555	5,488,455	5,258,169

(単位:千円)

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動による資金収支	収入					
	学生生徒等納付金収入	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115	3,187,496
	手数料収入	112,569	104,154	97,983	87,793	87,475
	特別寄付金収入	4,550	12,350	1,250	1,000	5,000
	一般寄付金収入	24,461	14,721	15,668	47,604	24,790
	経常費等補助金収入	253,124	260,439	215,358	342,297	332,958
	付随事業収入	45,324	46,794	33,477	34,970	37,590
	雑収入	141,417	151,692	140,629	44,202	67,961
	教育活動資金収入計	3,879,145	3,798,061	3,728,746	3,698,983	3,743,270
	支出					
	人件費支出	1,638,755	1,636,190	1,634,433	1,491,513	1,539,587
	教育研究経費支出	952,299	998,967	1,072,953	960,602	1,173,027
	管理経費支出	209,339	308,712	228,017	217,788	218,363
教育活動資金支出計	2,800,395	2,943,870	2,935,405	2,669,904	2,930,977	
差引	1,078,750	854,191	793,341	1,029,079	812,293	
調整勘定等	△ 86,215	66,506	△ 32,349	124,816	6,628	
教育活動資金収支差額	992,535	920,697	760,991	1,153,895	818,920	
施設整備等活動による資金収支	収入					
	施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
	施設設備補助金収入	0	0	28,965	6,971	11,660
	施設設備売却収入	10,000	48,800	0	132,000	0
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	40,000	27,000	0
	減価償却引当特定資産取崩収入	0	0	0	0	0
	施設整備等活動資金収入計	10,000	48,800	68,965	165,971	11,660
	支出					
	施設関係支出	154,571	385,915	41,477	210,042	98,081
	設備関係支出	215,275	161,921	212,040	207,861	122,531
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	370,000	370,000	350,000	300,000	300,000
減価償却引当特定資産繰入支出	300,000	300,055	200,630	600,000	300,000	
施設整備等活動資金支出計	1,039,846	1,217,891	804,147	1,317,904	820,612	
差引	△ 1,029,846	△ 1,169,091	△ 735,182	△ 1,151,933	△ 808,952	
調整勘定等	18,151	△ 1,515	41,503	△ 66,064	6,479	
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,011,695	△ 1,170,606	△ 693,679	△ 1,217,997	△ 802,473	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 19,160	△ 249,909	67,312	△ 64,101	16,447	
その他の活動による資金収支	収入					
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	有価証券売却収入	0	0	0	0	3
	退職給与引当特定資産取崩収入	27,798	17,303	12,289	7,431	1,001
	研究充実準備積立金取崩収入	0	0	0	3,300	11,000
	奨学金引当特定資産取崩収入	0	0	1,000	1,000	1,000
	預り金受入収入	16,125	15,369	0	30,072	0
	小計	43,924	32,673	13,289	41,804	13,004
	受取利息・配当金収入	50,553	49,456	43,380	41,435	41,266
	その他の活動資金収入計	94,477	82,129	56,669	83,239	54,270
	支出					
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,292	1,555	1,704	1,864	2,001
	退職給与引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0
	預り金支払支出	0	0	8,253	0	16,058
	研究充実準備積立金繰入支出	5,000	5,000	5,000	5,000	25,000
	奨学金引当特定資産繰入支出	0	10,000	0	0	1,000
小計	6,292	16,555	14,958	6,864	44,059	
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	
その他の活動資金支出計	6,292	16,555	14,958	6,864	44,059	
差引	88,184	65,574	41,711	76,375	10,211	
調整勘定等	0	0	0	0	0	
その他の活動資金収支差額	88,184	65,574	41,711	76,375	10,211	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	69,024	△ 184,334	109,023	12,273	26,659	
前年度繰越支払資金	1,422,631	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,618	
翌年度繰越支払資金	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617	1,455,276	

財務運営の状況 : 事業活動収支の状況

- 神戸薬科大学 -

(単位：千円)

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,297,699	3,207,910	3,224,380	3,141,115	3,187,496
		手数料	112,569	104,154	97,983	87,793	87,475
		寄付金	29,011	27,071	16,918	48,604	29,790
		経常費等補助金	253,124	260,439	215,358	324,409	326,700
		付随事業収入	45,324	46,794	33,477	34,970	37,590
		雑収入	141,417	151,692	140,629	44,202	67,961
		教育活動収入計	3,879,145	3,798,061	3,728,746	3,681,095	3,737,012
	事業活動支出の部	人件費	1,610,960	1,618,887	1,622,144	1,484,081	1,538,586
		教育研究経費	1,471,890	1,516,572	1,577,878	1,450,441	1,662,127
		管理経費	298,519	389,947	322,944	311,630	314,615
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	3,381,371	3,525,406	3,522,966	3,246,153	3,515,328
	教育活動収支差額		497,774	272,655	205,779	434,941	221,684
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	50,553	49,456	43,380	41,435
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			50,553	49,456	43,380	41,435	41,266
事業活動支出の部		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		50,553	49,456	43,380	41,435	41,266	
経常収支差額		548,327	322,112	249,160	476,377	262,950	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	2,195	0	0	0	3
		その他の特別収入	13,266	11,302	43,654	38,886	37,736
		特別収入計	15,462	11,302	43,654	38,886	37,739
	事業活動支出の部	資産処分差額	9,686	243,591	18,174	137,631	35,133
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	9,686	243,591	18,174	137,631	35,133
特別収支差額		5,776	△232,289	25,480	△98,744	2,606	
基本金組入前当年度収支差額		554,103	89,822	274,640	377,632	265,557	
基本金組入額合計		△582,666	△324,927	△405,379	△198,603	△383,090	
当年度収支差額		△28,562	△235,105	△130,738	179,029	△117,533	
前年度繰越収支差額		757,347	728,785	493,680	362,941	541,971	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		728,785	493,680	362,941	541,971	424,437	

資産の部					
科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産 (a)	24,251,678	24,588,893	24,743,121	25,189,870	25,424,816
有形固定資産	12,880,813	12,548,721	12,198,904	11,777,520	11,397,466
うち、土地	1,136,963	867,626	867,626	700,025	700,025
うち、建物	9,557,836	9,547,926	9,218,065	9,041,940	8,712,938
うち、構築物	292,319	332,992	314,115	299,664	277,984
うち、教育研究用機器備品	771,748	687,493	698,755	691,903	622,450
特定資産	11,365,496	12,034,803	12,538,849	13,406,982	14,021,982
うち、減価償却引当特定資産	6,224,679	6,524,734	6,725,364	7,325,364	7,625,364
その他の固定資産	5,368	5,368	5,368	5,368	5,368
流動資産 (b)	1,617,716	1,415,262	1,553,343	1,462,560	1,498,038
うち、現金預金	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617	1,455,276
うち、有価証券	0	0	0	0	0
合計 (a+b)	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431	26,922,855
減価償却額の累計額の合計額	7,253,772	7,539,237	7,982,728	8,327,851	8,788,994
負債及び純資産の部					
科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
負債 (c)	1,426,124	1,471,062	1,488,730	1,467,063	1,471,930
固定負債	835,917	818,614	806,324	798,893	797,892
うち、長期借入金	0	0	0	0	0
うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、退職給与引当金	835,917	818,614	806,324	798,893	797,892
流動負債	590,206	652,448	682,405	668,170	674,038
うち、前受金	383,810	417,946	399,852	418,075	448,293
純資産 (d)	24,443,271	24,533,094	24,807,734	25,185,367	25,450,924
基本 金	23,714,485	24,039,413	24,444,792	24,643,396	25,026,486
第1号基本金	20,134,586	20,087,958	20,181,633	20,105,372	20,186,461
第2号基本金	2,380,000	2,750,000	3,060,000	3,333,000	3,633,000
第3号基本金	951,065	952,621	954,325	956,190	958,191
第4号基本金	248,834	248,834	248,834	248,834	248,834
繰越収支差額	728,785	493,680	362,941	541,971	424,437
翌年度繰越収支差額	728,785	483,680	362,941	541,971	424,437
合計 (c+d)	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431	26,922,855
基本金未組入額	0	0	0	0	0

区 分			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
貸借対照表関係比率	1	固定資産構成比率	固定資産 総資産	94.0	93.7	94.1	94.5	94.4
	2	有形固定資産構成比率	有形固定資産 総資産	51.7	49.8	46.4	44.2	42.3
	3	特定資産構成比率	特定資産 総資産	42.2	43.9	47.7	50.3	52.1
	4	流動資産構成比率	流動資産 総資産	6.0	6.3	5.9	5.5	5.6
	5	固定負債構成比率	固定負債 + 純資産	3.4	3.2	3.1	3.0	3.0
	6	流動負債構成比率	流動負債 + 純資産	2.4	2.3	2.6	2.5	2.5
	7	内部留保資産比率	運用資産 - 総負債 総資産	42.0	44.2	47.4	50.2	52
	8	運用資産余裕比率	運用資産 - 外部負債 事業活動支出	364.8	378.1	391.1	437.2	435.0
	9	純資産構成比率	純資産 負債 + 純資産	94.1	94.5	94.3	94.5	94.5
	10	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 負債 + 純資産	3.0	2.8	1.4	2.0	1.6
	11	固定比率	固定資産 純資産	99.8	99.2	99.7	100	99.9
	12	固定長期適合率	固定資産 純資産 + 固定負債	96.3	95.9	96.6	96.9	96.9
	13	流動比率	流動資産 流動負債	245.9	274.1	227.6	218.9	222.2
	14	総負債比率	総負債 総資産	5.9	5.5	5.7	5.5	5.5
	15	負債比率	総負債 純資産	6.2	5.8	6.0	5.8	5.8
	16	前受金保有率	現金預金 前受金	328.6	388.6	354.2	341.7	324.6
	17	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	18	基本金比率	基本金 基本金要組入額	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	19	減価償却比率	減価償却累計額(圖書を除く) 減価償却資産取得価額(圖書を除く)	38.3	40.4	43.6	45.2	47.6
	20	積立率	運用資産 要積立額	114.3	112.6	115.7	110.6	109.2
事業活動収支計算書関係比率	1	人件費比率	人件費 経常収入	39.1	41.0	43.0	39.9	40.7
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	46.4	48.9	50.3	47.2	48.3
	3	教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	38.4	37.5	41.8	39.0	44.0
	4	管理経費比率	管理経費 経常収入	8.1	7.6	8.6	8.4	8.3
	5	借入金等利息比率	借入金等利息 経常収入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	18.5	14.0	7.2	10.0	7.0
	7	基本金組入後収支比率	事業活動支出 事業活動収入 - 基本金組入額	110.3	100.8	103.8	95.0	103.4
	8	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	84.2	83.9	85.5	84.4	84.4
	9	寄付金比率	寄付金 事業活動収入	0.4	0.7	0.7	1.7	1.3
	10	経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金 経常収入	0.5	0.7	0.4	1.3	0.8
	11	補助金比率	補助金 事業活動収入	6.7	6.4	5.6	9.3	9.0
	12	経常補助金比率	教育活動収支の補助金 経常収入	6.7	6.4	5.7	8.7	8.6
	13	基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入	26.1	14.8	10.6	5.3	10.0
	14	減価償却額比率	減価償却額 経常支出	17.6	18.0	17.0	18.0	16.7
	15	経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	14.4	14.0	6.6	12.8	7.0
	16	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	13.0	12.8	5.5	11.8	5.9
活動区分資金収支計算書関係比率								
1	教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	28.3	25.6	20.4	31.2	21.9	

(注) 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計
 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計
 教育活動資金収支差額 = 教育活動資金収入計 - 教育活動資金支出計 + 教育活動調整勘定等
 運用資産 = 特定資産 + 有価証券(固定資産) + 有価証券(流動資産) + 現金預金
 外部負債 = 借入金 + 学校債 + 未払金 + 手形債務
 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金

財務比率を用いた経営分析

(単位：%)

区分		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	薬系単科大学平均 (2020年度)	
貸借対照表	① 純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	94.5	94.3	94.3	94.5	94.5	92.8
	② 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	274.1	216.9	227.6	218.9	222.2	245.2
	③ 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	5.8	6.0	6.0	5.8	5.8	7.8
	④ 基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
事業活動収支関係	⑤ 人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	41.0	42.1	43.0	39.9	40.7	40.5
	⑥ 教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	37.5	39.4	41.8	39.0	44.0	39.2
	⑦ 管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.6	10.1	8.6	8.4	8.3	8.3
	⑧ 事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	14.0	2.3	7.2	10.0	7.0	12.5
	⑨ 学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	83.9	83.4	85.5	84.4	84.4	84.0

(注) 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

- ① 純資産構成比率は総負債及び純資産の合計額のうち、純資産の占める割合を示す比率であり、高いほうが財政的に安定しているとされている。本学は薬系単科大学平均値を上回り財政的に安定しているといえる。
- ② 流動比率は流動負債に対する流動資産の割合を示す比率で、短期的な支払い能力を判断する指標である。本学は薬系単科大学平均値をやや下回るが問題ない水準である。
- ③ 負債比率は純資産に対する総負債の割合を示す比率であり、100%以下かつ低いほうがよいとされている。本学は薬系単科大学平均値を下回る水準である。
- ④ 基本金比率は基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合を示す比率で、100%が望ましいとされている。本学は過去5年間100%である。
- ⑤ 人件費比率は人件費の経常収入に対する割合を示す比率であり、低いほうがよいとされている。本学は薬系単科大学平均値と同等の水準である。
- ⑥ 教育研究経費比率は教育研究経費の経常収入に対する割合を示す比率である。教育研究経費は学校法人の本業である教育研究活動の維持・発展を支える重要な費用であり、高いほうが望ましいとされている。本学は薬系単科大学平均値を上回る水準である。
- ⑦ 管理経費比率は管理経費の経常収入における割合を示す比率である。管理経費は教育活動以外の目的による経費であるので、低いほどよいとされている。本学は薬系単科大学平均値と同水準である。
- ⑧ 事業活動収支差額比率は事業活動収入のうち基本金組入前の当年度収支差額が占める割合を示す比率であり、プラスかつ高いほうがよいとされている。本学は薬系単科大学平均値を下回る水準であるが、過去5年間プラスで推移している。
- ⑨ 学生生徒等納付金比率は学生生徒等納付金の経常収入に占める割合を示す比率である。この収入は学校法人の経常収入のなかで最大の比重を占めており安定的に推移することが望ましい。本学は過去5年間概ね安定的に推移しているが、薬系単科大学平均値を若干上回っており引き続き収入源の多様化が課題である。

財産目録

- 神戸薬科大学 -

(単位：千円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	24,251,678	24,588,893	24,743,121	25,189,870	25,424,816
有形固定資産	12,880,813	12,548,721	12,198,904	11,777,520	11,397,466
土地	1,136,963	867,626	867,626	700,025	700,025
建物	9,557,836	9,547,926	9,218,065	9,041,940	8,712,938
構築物	292,319	332,992	314,115	299,664	277,984
教育研究用機器備品	771,748	687,493	698,755	691,903	622,450
管理用機器備品	85,975	78,072	72,944	81,163	71,367
図書	1,034,101	1,033,114	1,023,497	962,074	933,869
車両	1,870	1,496	1,122	748	374
建設仮勘定	0	0	2,777	0	78,458
特定資産	11,365,496	12,034,803	12,538,849	13,406,982	14,021,982
第2号基本金引当特定資産(教育環境整備資金)	1,400,000	1,700,000	2,000,000	2,300,000	2,600,000
“(大型機器充実資金)	80,000	100,000	60,000	33,000	33,000
“(施設設備整備資金)	900,000	950,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
第3号基本金引当特定資産(厚生資金)	226,334	226,709	227,233	227,916	228,736
“(奨学資金)	454,104	454,104	454,104	454,104	454,104
“(榎並奨学・報奨基金)	125,224	125,739	126,254	126,769	127,284
“(記念事業準備資金)	145,401	146,067	146,733	147,399	148,065
減価償却引当特定資産	6,224,679	6,524,734	6,725,364	7,325,364	7,625,364
第4号基本金引当特定資産	248,834	248,834	248,834	248,834	248,834
退職給与引当特定資産	835,917	818,614	806,324	798,893	797,892
教育充実準備積立金	720,000	720,000	720,000	720,000	720,000
研究充実準備積立金	5,000	10,000	15,000	16,700	30,700
奨学金特定資産積立金	0	10,000	9,000	8,000	8,000
その他の固定資産	5,368	5,368	5,368	5,368	5,368
電話加入権	1,325	1,325	1,325	1,325	1,325
有価証券	4,043	4,043	4,043	4,043	4,043
流動資産	1,617,716	1,415,262	1,553,343	1,462,560	1,498,038
現金預金	1,491,655	1,307,320	1,416,344	1,428,617	1,455,276
未収入金	114,858	102,721	133,774	28,079	37,947
前払金	11,202	5,220	3,225	5,863	4,815
資産の部合計	25,869,395	26,004,156	26,296,465	26,652,431	26,922,855
固定負債	835,917	818,614	806,324	798,893	797,892
長期借入金	0	0	0	0	0
退職給与引当金	835,917	818,614	806,324	798,893	797,892
流動負債	590,206	652,448	682,405	668,170	674,038
短期借入金	0	0	0	0	0
未払金	40,287	53,022	109,327	46,797	38,504
前受金	383,810	417,946	399,852	418,075	448,293
預り金	166,108	181,478	173,225	203,297	187,239
負債の部合計	1,426,124	1,471,062	1,488,730	1,467,063	1,471,930
差引純資産額	24,443,271	24,533,094	24,807,734	25,185,367	25,450,924

4. 経営上の成果と課題、今後の対応方策

(1) 経営上の成果と課題

- ・2021年度は、学生生徒等納付金以外の収入源の多様化を図るため、積極的な外部資金の獲得、関連部署が連携した積極的な補助金の獲得、寄付金事業の充実を図った結果、補助金収入、寄付金収入は予算額を上回り、付随事業・収益事業収入における受託事業収入も予算額を上回った。
- ・キャンパス整備計画に向けた所要資金確保のため、2021年度も計画通り第2号基本金引当特定資産3億円の積増しを行った。
- ・キャンパス整備計画に伴い多額の資金投入を予定しており、今後の財務基盤を維持するため引き続き上記収入源の多様化を図るとともに、経常経費を含めた支出の見直しへの取り組みが必要である。

(2) 今後の対応方策

- ・最大の収入源である学生生徒等納付金収入の安定的な確保を図るとともに、引き続き積極的な外部資金の獲得、関連部署が連携した積極的な補助金の獲得、寄付金事業の充実を図る。
- ・支出面においても経常経費を含め予算を慎重に審議し適切かつ効率的な資金投入を行う。